

国際柔道連盟試合審判規定の対応について (高体連の申し合わせ事項)

1 優勢勝の判定基準

- (1) 団体試合は、「有効」または「僅差（指導差2）」以上とする。チームの内容が同等の場合は、全国高体連柔道専門部の申し合わせに準じて代表戦を行う。得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
- (2) 個人試合は、「有効」または「僅差（指導差2）」以上とする。得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。

2 競技方法（団体試合）

- (1) トーナメント戦の勝敗は次による。

① 判定基準

- * 選手対選手それぞれの試合の勝敗は「有効」または「僅差」以上とする。
- * 「僅差」は指導差2とする。

② 「技の内容」と「指導」の重み

- * 【一本勝ち＝反則勝ち＞技あり＞有効＞僅差】の順とする。

③ 団体試合（点取り戦）のチーム対チームの勝敗の決定

以下の項目に従って勝敗を決定する

(ア) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

(イ) (ア)で同等の場合は「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

* ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

(ウ) (イ)で同等の場合は「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

(エ) (ウ)で同等の場合は「有効」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

(オ) (エ)で同等の場合は代表戦を行う。

④ 団体試合（点取り戦）のチーム対チームの勝敗の決定

各試合の内容は問わない。

【補足説明】代表戦で勝敗が決しない場合の具体的な例は、次のとおりである。

- 1 代表戦が終了した時点で技による得点差がなく、指導差もない（0－0、1－1、2－2）、あるいは指導差1（2－1、1－0）の場合は延長戦を行う。
- 2 延長戦では、技による得点があった時点で試合終了となる。
- 3 延長戦で片方に指導が与えられて指導の数に差がなくなった場合は、そのまま試合続行となる。
1－0 ⇒ 1－1、 2－1 ⇒ 2－2
- 4 延長戦で指導が与えられて指導の数に差がついた場合は、その時点で試合終了となる。
0－0 ⇒ 1－0 （1の負け）
1－0 ⇒ 2－0 または 1－1 ⇒ 2－1 （2の負け）
2－1 ⇒ 3－1 または 2－2 ⇒ 3－2 （3の反則負け）
- 5 延長戦で両者同時に指導が与えられた場合、指導の数の多い方が負けに成る。
1－0 ⇒ 2－1 （2の負け）、 2－1 ⇒ 3－2 （3の反則負け）